

議題（２） 小3以降への少人数教育について

【現状】

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
県の基準	25人	25人	35人	35人	35人	35人
国の基準	35人	35人	35人	40人	40人	40人

※国は、R5年度に4年生35人、R6年度に5年生35人、R7年度に6年生35人とする

【小学校3年生以降の特徴として考えられること】

- 小学校3年生以降は、自我が芽生え、個々の活動が広がりを見せることから、落ち着いた学習環境やきめ細かな指導、声かけが必要な時期である。
- 中学年という時期は、各教科における基礎基本を確実に身につける時期であると同時に、学級活動やクラブ活動等における生活集団において日頃から切磋琢磨したり、多様な意見に触れたりする機会が増えてくる重要な時期であり、より大きな集団においても個人と集団が調和的に発達できるようにすることが大切である。
- 小学校3年生は、社会、理科といった教科や外国語活動が始まり、各教科等の特質に応じた学びにつなげる時期であり、また、総合的な学習の時間において、具体的な活動や体験をもとに教科を横断した学びが始まる時期でもある。
- 小学校3年生以降は、協働的な学びが増えるカリキュラムになるなど、より集団に着目した活動が活発になることから、学級での活動に多様性が求められる。

など

◇ 論点（本日まで意見を伺いたい論点）

- ・これまで県は国の基準を上回る学級編制を実施してきていることを考えると、小学校3年生以降についても、国の35人学級編制の基準を上回る基準が望ましいのではないか。
- ・学級規模として望ましい規模（人数など）をどう考えるか。

- ・小学校3年生以降の少人数学級の規模を考えた場合、例えば次の場合が考えられる。

	小学校1・2年生	小学校3・4年生	小学校5・6年生
ケース①	25人	25人	
ケース②	25人	30人	
ケース③	25人		

※ 本年度はまず小学校3・4年生について検討する。